2021年10月発行

intertek news

Vol.74

ISO関連季刊情報誌（年4回発行）

CONTENTS

01 「スラムダンク」に見るリーダーシップの多様性

02 03 特集
ISOを活用した四方よし経営（2）
～時代の変化に対応したマネジメントシステム～

04 News&Topics
- ISO/IEC27701（プライバシー情報マネジメントシステム）認証開始のご案内
- 産業交流展2021 ハイブリッド出展のお知らせ
- SAI Global Standards and Assurance社買収のお知らせ
- Information：テキスタイルエクスチェンジ認証のご紹介

05 審査の現場から
- お客様紹介
（独立行政法人造幣局）

06 連載よみもの
- 審査員リレーエッセイ
「ディズニーランド」
（審査員　村田 守利）
- 環境とISO14001
「新型コロナウイルス危機」
（その5：コロナ後のマネジメントシステム）

07 お客様からのお便り
- 「環境にやさしい機内食をめざして」
（ジャルロイヤルケータリング株式会社）
- 「日々、学び成長し続ける技術集団」
（中條電機水道株式会社）

08 研修コースのご案内
- Information：契約書の電子化について
- 研修コース案内
- 受講生からのお便り
（審査員　山田 耕一）

インターテック・サーティフィケーション株式会社
発行 大阪事務所
◆バックナンバーは、弊社ホームページにてご覧いただけます。
https://ba.intertek-jpn.com/

「スラムダンク」に見る リーダーシップの多様性

営業部 東日本エリア 北関東地区リーダー　宇都宮（うつのみや） 勝（まさる）

平素は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

本年は東京オリンピック/パラリンピックの開催があり大変熱い夏となりましたが、近年は平時でも世界で活躍する日本人選手が増えてきたように感じています。片や、日本のアニメは以前より世界から高い評価を受けており、その中のひとつに「スラムダンク」という作品があります。バスケット部をモチーフとして様々なチームが登場するので、それぞれに違った形のリーダーシップが描かれています。

主人公である桜木花道にとって初めての練習試合の相手となる陵南高校のエース、仙道彰。寝坊癖など素行には多少難がありますが、バスケットとなると天才的なプレーでチームメイトからの信頼も絶大な彼が、試合中冷静さを失いかけたチームに発する一言には落ち着きを取り戻させる力があります。

「あわてるこたーない。おちついて攻めよう」「さ、いこーか」
不測の事態が付き物な組織活動においては、こうして平常心をキープさせてくれる存在は非常に重要かと思います。

もう１校、個人的に印象深いチームに翔陽高校があります。このチームはキャプテンである藤真健司が選手兼監督であるため、平時は監督としてメンバーを指揮しますが、試合状況が悪化してくると自らが選手として加入し、全く別のチームに変貌させます。決勝リーグをかけた湘北高校との戦いでは僅差で負けてしまいますが、もし彼が選手に徹することができたら、もしくは優秀な監督がいたら…。明確な役割分担によってチームのパフォーマンスは変わってくるのかもしれません。

ISO9001の指針であるISO9004のリーダーシップの項目の一部に、組織が行うと望ましいこととして「信頼及び誠実の文化の促進」や「チームワークの確立および維持」、「競争力を向上させる組織構造を確立し、維持すること」という記載があります。漫画はフィクションですが、現実の事業活動を想わせる部分があります。

特集

ISOを活用した四方よし経営(2)

～時代の変化に対応したマネジメントシステム～

角子　裕司

前号に続き、ISOを活用した四方よし経営について取り上げます。今号ではさらに、四方よし経営をISOで実践するポイントと利点について、より具体的に規格条項や課題例を交えながら解説しております。前号の内容と合わせて、導入検討・活性化のご参考にしていただけましたら幸いです。（編集部）

前号において、四方よし（買い手よし、世間よし、働き手よし、売り手よし）経営とISOマネジメントシステム（品質、環境、労働安全衛生）の関係について解説いたしました。今回はその続編となり、四方よし経営をISOで実践するポイントと利点について解説いたします。

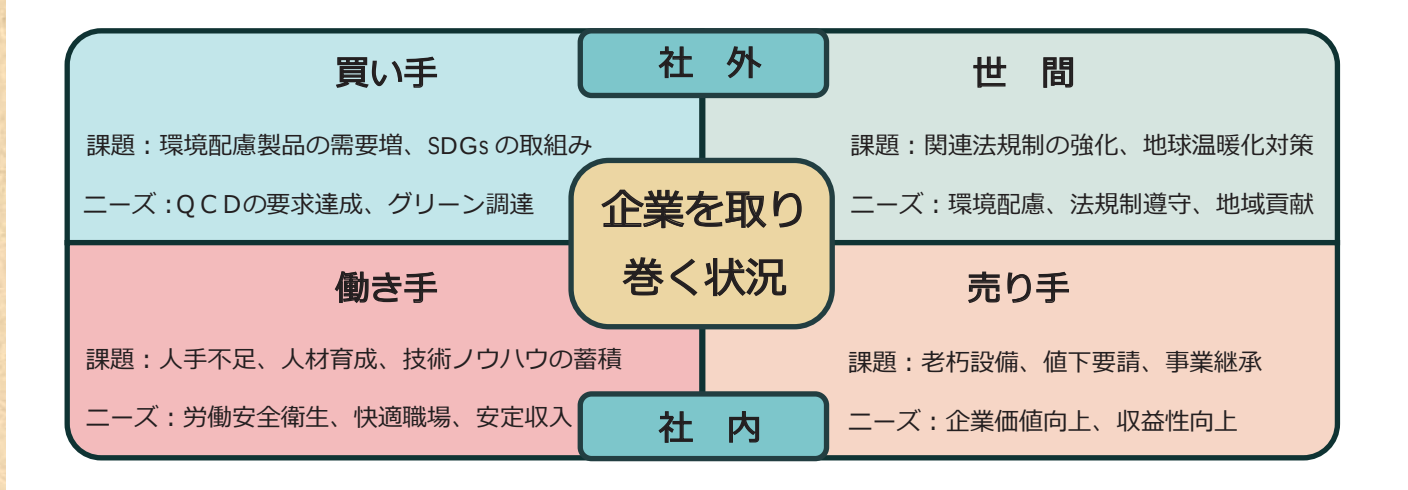
1 ISOで実践する3つのポイント

①ISO 9001・14001・45001と財務管理の統合化

四方よし経営を実践するツールとして用いるISO（9001、14001、45001）マネジメントシステムは、附属書SLに基づき、箇条タイトル、箇条順序、共通テキスト、共通用語・定義に共通性のある仕組みです。そのため、システム統合が容易であり、ベースとなるISO 9001に14001、45001の固有要求事項と自社の財務管理システムを統合させることで、四方よし経営のOS（オペレーティングシステム）となる統合ISOが構築できます。

その際、社内教育に役立てる目的で、5W1Hを明確にしたマニュアルの作成をお勧めいたします。

ISO 9001（買い手よし）ベースとなる要求事項	ISO 14001（世間よし）追加する固有要求事項	ISO 45001（働き手よし）追加する固有要求事項
4.　組織の状況	－	－
5.　リーダーシップ	－	5.4　働く人の協議及び参加
6.　計画	6.1.2　環境側面 6.1.3　順守義務	6.1.2　危険源の特定並びにリスク及び機会の評価 6.1.3　法的要求事項及びその他の要求事項の決定
7.　支援	－	－
8.　運用	8.1　運用の計画及び管理 a）～ d）ライフサイクルの視点 8.2　緊急事態への準備及び対応	8.1.2　危険源の除去及び労働安全衛生リスクの低減 8.1.4　調達（請負者、外部委託） 8.2　緊急事態への準備及び対応
9.　パフォーマンス評価	－	－
10.　改善	－	10.2　インシデント，不適合及び是正処置



②規格要求事項4.1、4.2、6.1に四方の視点を

時代の変化に対応したマネジメントシステムとする為、「4.1:外部、内部の課題の明確化」と「4.2:利害関係者とそのニーズ、期待の明確化」に、四方の視点（品質、環境、労働安全衛生、財務）を漏れなく洗い出すことが重要です。そして、その内容を「6.1:リスク及び機会への取組み」にきちんと反映させることで、四方よしを実現するための、方針⇒目標⇒計画⇒手順を導き出すことに繋がります。

③ISO認証取得は目的ではなく手段

ISOが形骸化している企業の多くは、認証取得を最終目的として活動をスタートし、認証を取得した後は、毎年、認証を維持し続けることが目的に置き換わっている傾向にあります。ISOを活用し四方よし経営に取り組む場合、理念に基づくビジョンの実現が最終目的となり、認証取得はその達成手段であり、1つの到達地点といえます。ISO認証取得を、看板広告にするのではなく、専門家である第三者からの問題点や指摘を受け入れ、「買い手、世間、働き手」と「売り手」との関係性向上の良い機会と捉えることができれば、組織にとって大きなメリットになり得ます。

2 四方よし経営をISOで取り組む利点

ISO活動に四方の視点を取り入れる事により、次のような利点が生まれます。

①一元化された1つの仕組みで管理するので、部分最適から全体最適にシフトされる。②全社員に経営の意識が共有される。③四方の視点から法的要求事項を特定するので法令順守が強化される。④人材育成やコミュニケーションの質が向上する。⑤ISO活動と事業活動がリンクされ、乖離がなくなる。

3 四方よし経営で持続可能な企業作り

近江商人のモットーである「三方よし」に、「働き手よし」という新しい軸を加えた「四方よし経営」は、働き方の多様化が進む現代の企業経営に不可欠な考え方です。「四方を同時に意識することは難しい」と言われる経営者もおられますが、実際は全く逆であり、四方よしでない事業を永続的に発展させる事の方が難しいことを、私達は過去の歴史から学ぶことが出来ます。是非とも、ISOを活用した四方よし経営の実践を通じて、従業員、顧客、地域社会から必要とされる持続可能な企業を目指しましょう。

筆者紹介

角子 裕司（かくし ゆうじ）

鉄鋼関連機関にて環境分野に関する調査・分析・品質管理業務等に従事。独立後、各種マネジメントシステムの構築および運用支援サービスを提供、実績多数。現在、中小規模製造業の経営体質強化支援を中心に活動。兵庫県在住。

ISO/IEC27701（プライバシー情報マネジメントシステム）認証開始のご案内

インターテック・サーティフィケーションでは、プライバシー情報の保護を目的とした国際規格であるISO/IEC27701:2019の認証を開始いたしました。

この規格は、ISO/IEC27001およびISO/IEC27002の拡張に基づいており（アドオン認証）、個人情報のマネジメントと保護の重要なガイドラインに対応し、外部または内部に関係なく管理及び処理する組織をサポートします。個人情報の取り扱いに対する認識と制御レベルの向上は、対外的な信頼性の向上も期待できます。さらに、国際的なマネジメントシステム規格であるため、個人情報保護法やGDPRなどの世界中のプライバシー規制の準拠を実証するのにも役立ちます。

ご興味がございましたら、弊社ホームページより、お気軽にお問合せください。また、ISO/IEC27000シリーズにつきましては、弊社ホームページをご参照ください。（https://ba.intertek-jpn.com/service/certification/standard11/）

産業交流展2021 ハイブリッド出展のお知らせ

2021年11月24日～26日に東京ビッグサイト南展示棟で、2021年11月17日から12月10日に公式オンライン会場で開催される国内最大級の見本市、産業交流展2021へハイブリッド出展いたします。

2021年の産業交流展では、社会環境・産業環境の変化や課題に柔軟かつ先進的に対応する技術やサービスを誇る中小企業が集結します。そして、今回初となるハイブリッド展示会（リアル展示会、オンライン展示会）を通じて異業種を含めた産業交流を加速させ、「中小企業の大胆な想像力が、東京の未来、日本の未来を切り拓いていく」ことにフォーカスしています。

インターテックは「環境」分野に出展し、ISO14001、GHG検証、テキスタイルエクスチェンジ認証、サステナビリティ関連サービスを主にご紹介させていただく予定です。産業交流展2021リアル展示会にお越しの際には、弊社ブースへぜひお立ち寄りください。感染対策に取り組み、皆様のご来場をお待ちしております。（産業交流展：https://www.sangyo-koryuten.tokyo/）

SAI Global Standards and Assurance社買収のお知らせ

インターテックは、システム認証や二者監査サービスの世界的企業、SAI Global Standards and Assurance社を買収しましたことをお知らせいたします。

SAI Global Standards and Assuranceは、オーストラリアに本社を構え、米国、カナダ、英国の他、アジア圏でも急成長している多国籍企業です。インターテックでは、ワールドクラスの保証サービスとともに、変化するビジネス状況によって進化していくお客様のニーズに合わせたサポートの提供に努めており、この買収はその取り組みの一つです。

同社は、品質管理システム認証に加え、食品、農業、さらに環境・サステナビリティ関連監査においても豊富な経験と専門知識を有しており、この買収が弊社の既存事業の補完・強化に繋がるだけでなく、革新的なサービスソリューションの開発を含めた事業展開へさらなる貢献ができるものと確信しております。今後もお客様へ最大限のサービスを提供できるよう努めてまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。なお、この買収によるお客様への現行サービス・対応への変更はございません。

INFORMATION

～新認証サービス紹介～

テキスタイルエクスチェンジ認証のご紹介

サステナブルな繊維産業、リサイクル産業を目指して

◆なぜ、インターテックがテキスタイルエクスチェンジ認証に取り組むか

SDGsは2030年までに持続可能でより良い社会の実現を目指すための世界共通17の目標です。豊かで活力のある社会を実現するため、SDGsの達成を意識した様々な活動が昨今展開されています。繊維産業・リサイクル産業においては、洋服が出来上がるまでの工程においては、サステナブルな材料の使用、有害物質排出削減など、持続可能な生産体制構築が求められています。そこで、アメリカの非営利団体である「テキスタイルエクスチェンジ（Textile Exchange）」が世界水準の共通的なルールに基づく、評価制度を考案しました。この制度は、羊毛や綿製品だけでなく他の動物由来の素材やリサイクル繊維など、繊維製品の全般を対象としています。

インターテックはこの制度に参画し、人間や動物福祉、環境に配慮された洋服である事を認証するテキスタイルエクスチェンジの認証審査を行っています。これによって、地球に優しいオーガニックコットンや動物福祉に配慮されたウールやダウンなどを使用した信頼できる製品である事を証明出来、認証は、地球規模の課題を解決するのに役立っています。

◆認証取得が求められる企業・団体様

サプライチェーンの各企業・団体様にて、範囲認証書（SC）のご取得が求められており、各工程にて、商取引認証書（TC）の発行も要件になっております。具体的には、ジニング工場、チップ製造工場、紡績工場、織布工場、染工場、縫製工場や、繊維関係の商材を取扱われる商社などが主な対象業種となります。

◆弊社取扱い認証・お問い合わせ

・リサイクルド クレーム スタンダード（RCS）認証
・グローバル リサイクルド スタンダード（GRS）認証
・オーガニック コンテント スタンダード（OCS）認証

貴社の現状や、今後の事業計画に即して、ぜひご検討ください。テキスタイルエクスチェンジ認証取得に際してのご不明点、技術的なお話や、認証取得のメリット、その他お見積依頼等につきましても、お気軽に担当：西薗（070-1799-9500／atsunori.nishizono@intertek.com）まで、お問合せください。

https://ba.intertek-jpn.com/service/certification/standard21/

お客様紹介

独立行政法人 造幣局 様

（ISO9001：2015、ISO14001：2015認証登録）

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

造幣局創業150周年 記念ロゴマーク

造幣局本局庁舎工場・博物館と桜（大阪市北区）

独立行政法人造幣局様は、1871年に明治政府により、現在の大阪市に創設され、今年で創業150周年を迎えられました。大阪市の本局に加え、さいたま市と広島市にそれぞれ支局を有し、貨幣の製造、勲章・褒章の製造、貨幣セット・金属工芸品の製造販売及び貴金属製品の品位証明等を手掛けられています。2003年に国の特別の機関から独立行政法人に移行することを機にISO9001を、2005年にはISO14001を認証取得され、昨年、審査機関をインターテックに変更されました。昨年の再認証審査は、3サイト、審査員7名にて実施しました。

審査で確認された優れた点の一つに、造幣局様では、2015年版への移行をきっかけに、業務プロセスとして本来業務の規程集の中へ緻密に融合されていることです。社内規程とは別に品質・環境マニュアルを設けている組織が多い中、重複の弊害を解消する、優れた取り組みと思われました。

また、造幣局様では、世の中に流通して摩耗するなど古くなった貨幣を、貨幣製造過程で発生した端材と合わせて、溶解炉で貨幣用鋳塊を製造する際の材料として、再利用する取り組みを行っておられます。純正画一で偽造されない貨幣を、合理的な価格で安定的かつ確実に供給するため、日々製造技術の維持向上に取り組まれているとのことでした。

溶解炉での回収貨幣の溶解風景

勲章製造（七宝釉薬手盛り）作業風景

貨幣の他にも、全国ニュースで毎年報道される春の叙勲・秋の叙勲にて授与される勲章や褒章を製造されています。勲章・褒章は、国家又は公共に対し功労のある方、社会の各分野における優れた行いのある方などを表彰するものです。それに相応しい重厚で品格のある勲章等を製造するために、これまで培われた手作業等の練達した伝統技術を維持・継承すると同時に、機械導入による効率化にも取り組まれています。

創業当時の造幣局（C.N.Mancini画：造幣局所蔵）

500円貨幣は、5スイスフラン貨幣に次ぎ、1枚当たりの価値が世界で2番目に高い貨幣とのことで、潜像（見る角度により文字等が見え隠れする加工）、斜めギザ、微細加工などの偽造防止技術が施されてるそうです。さらに、今年は、バイカラークラッド構造（三層構造のコアを、それとは異なる材質のリングに嵌め込んだもの）や、異形斜めギザ（斜めギザの一部を他とは異なる形状にしたもの）などの、世界最高水準の偽造防止技術を加えた、新しい500円の発行が予定されています。「信頼と挑戦」を行動指針として、150年の長い歴史を有しつつ、今も新たな業務展開に臨まれているとのことでした。

今年発行予定の新しい500円貨幣

https://www.mint.go.jp/

審査員リレーエッセイ ⑫

From
三重県伊勢市
村田 守利
（むらた もりとし）

Profile
専門分野：ISO14001－農化学薬品、環境分析、産業廃棄物埋立処分場管理、環境影響評価（アセスメント）
経　　歴：平田紡績株式会社、一般財団法人三重県環境保全事業団、インターテック審査員（現職）

審査員からのエッセイをお楽しみください。

「ディズニーランド」

孫の2歳の誕生日に、村田ファミリー全員でディズニーランドに行こうということになりました。当時、全員というと家内や独身だった三男坊主も含めると総勢12名の一大デレゲーションです。もちろん、その費用は全て私（つまり、じーじ）が持つという条件での計画で、その費用たるや相当な額になりました。でも、孫たちがみんな喜んでいる姿を見ていたら、爺馬鹿というか、そんなことはすっかり吹き飛んじゃったのを覚えています。

ディズニーランドは、歩くだけでメチャ大変でしたが、当時始まっていた夜のシンデレラ城に映し出されたプロジェクションマッピングの素晴らしい光景は今でも目に焼き付いています。その後、関東にいる孫たちから時々ライン電話が入ってきます。「じーじ、またディズニーランドに行こうね！」って、その時は本当に困るんですよね、、、、、、ポケットマネーには限界があるし、、、、。

連載「環境とISO14001」⑫

「新型コロナウイルス危機」（その5：コロナ後のマネジメントシステム）

環境主任審査員　郷古 宣昭 *Nobuaki Goko*

■ 感染大流行で判明したこと

・誰もウイルス感染大流行を予想せず、感染リスクの備えが不十分でした。

・経済活動の制限で経済的に不利な境遇にある人々に苛酷な犠牲を強いることが多くの国で露わになり、日本では職を失って困窮する非正規労働者やアルバイト収入を絶たれて学業を諦める学生も現れました。

■ コロナ後の企業経営で求められること

・近年、国境を超えて広がったウイルス感染は数年毎に発生しています。ヒトに感染する鳥インフルエンザも昨シーズンは大発生して国内で987万羽の鶏が殺処分されました。これらを考慮すると感染大流行は「今後も起こりうるリスク」として管理する必要があります。

・2020年は、国際社会が「気候変動」や「持続可能な社会」への取組みを漸く開始した年でした。そのため、国連は感染流行で停滞した経済の復興を流行以前に戻るのではなく、より強靭な社会を構築する「グリーンリカバリー」を提唱しました。これにより、各国の為政者は「気候変動対策」や「社会の歪みを改善する施策」を復興計画に盛り込みました。

・銀行や機関投資家が新しい企業評価として進めていた「ESG（環境・社会的責任・内部統制）投資」を強化する方針を打ち出し、以下の取組みを求めています。

E:再生可能エネルギー
S:組織内外の人権問題、地域問題
G:多様なメンバーによる意思決定

■ ISO14001,ISO45001,ISO9001で対応する

上記の取組みはISO14001(環境)、ISO45001(労働安全衛生)、ISO9001(品質)に反映ができます。( )内は規格の箇条、規格名がないのは3規格共通です。

・組織の内部外部の状況分析(4.1)からマネジメントシステムの成果の達成に影響するリスクを管理する(6.1)。

－豪雨・熱波等の気候変動は対応(8.2)だけでなく、再生可能エネルギーの導入も考慮する（環境6.1、6.2）。

－感染流行に厳重に備える(8.2)。ISO45001では病原性危険源として特定し、予防対策する(労安6.1、8.1)。

－供給者チェーンの分断は供給者と協調して対応する(8.1)(品質8.4)。

・人権問題には各省庁の指針や法改正情報を基に厳格に判断する。

－組織内における「働き甲斐のある仕事」は、政府が進める「働き方改革」に従って「残業負荷」や「休暇取得」を見直し、「ハラスメント防止」や「均等・均衡待遇」を導入するなど法順守で対応する(労安6.1.3、9.1.2)。

－供給者チェーンにおける「児童労働」「強制労働」「劣悪労働環境」は原材料の採取現場や途上国での委託生産で頻発し易い。仲介業者や監査会社に調査や認定証明を依頼することが望ましい(労安6.1.2)。

・利害関係者のニーズと期待に耳を傾け、広く声を集め、対応することが組織の存在価値を高めることになる。重要な利害関係者とは関係性を管理し、価値観を共有し、協調して問題を解決することが重要(4.2)。

・意思決定のプロセスに多様な人々が関わっていることを確認する(5.3)。

以上、コロナ後の企業経営で求められる事項は、ISO(14001、45001、9001)でほぼ対応できることを示しました。個々の問題については機会を見て解説したいと思います。興味のある方は、弊社ホームページ掲載の本誌Vol 37、38、41、53、55、57の同コラムもご参照ください。

次回は「日本のエネルギー計画」について解説します。

No.01 Letter

環境にやさしい機内食をめざして

ジャルロイヤルケータリング株式会社（ISO14001:2015認証登録）

EMS事務局　平山 茂

航空機への搭載

私たちジャルロイヤルケータリングは1992年1月、日本航空株式会社と外食産業の老舗ロイヤルホールディングス株式会社との合弁会社として創業しました。以来、成田空港および羽田空港に拠点を置き、国際線機内食を調製しています。当社のモットーは、「安全で高品質な機内食」。空の上でも味わい深いお食事を召し上がっていただけますよう、四季折々の味覚を提供しています。

そして、今回「環境にやさしい機内食をめざして」ISO14001の認証を取得しました。これまでも、食品廃棄の削減や、工場排水の処理に薬品を一切使用せず酵母を使うことで環境に負荷をかけない「排水処理設備（バイオルンシステム）」の導入、また生物多様性に配慮したASC/MSC認証などの食材の積極的な採用など、環境に配慮した活動を行ってきましたが、今回のISO取得でより体系的・組織的に取組みを推進する体制を構築しました。

これからも「安全で高品質な機内食」に加え、「環境にやさしい機内食」をめざして努力してまいります。

JALファーストクラス機内食（和食）

▶ http://www.jalroyal.co.jp/

No.02 Letter

日々、学び成長し続ける技術集団

中條電機水道株式会社（ISO9001:2015認証登録）

代表取締役　奈良 章司

創業当時の入浜式塩田風景（坂出市HPより）

当社は、香川県坂出市にて昭和26年創業、今年で70周年を迎えました。創業当時、会社近くは浜で、塩田が広がっていました。その後、四国各地で浄水場における電気工事を手がけました。2018年にISO9001の認証取得、今年、ISO14001の追加認証に向けて取り組んでいます。

令和元年、小手島受水地電気設備工事を受注、25才の若手が、初の現場代理人兼主任技術者を経験、完工させました。小手島は、瀬戸内海に浮かぶ、周囲約3.8km、人口約30人の島で、本土から海底送水管で運ばれた上水を受水して、配水池へ送水する設備工事を行いました。小手島には、地元丸亀港を朝6時に出航、他の島に寄港しながら、7時半に着き、帰るのは夕方の船です。船から、瀬戸内海の日の出、日の入りを眺めて、約3か月通いました。渋滞や、通勤ラッシュとも無縁です。

その他、大型物件、坂出市役所の実績や、坂出警察署は施工中です。日々、学び成長し続ける技術集団として、地域に貢献しています。

小手島（丸亀市HPより）

information

＝契約書の電子化について＝

お客様各位

脱ハンコなど日本におけるデジタル化の導入が推奨されている昨今、インターテックでも業務効率化やCO_2排出削減に向けた活動の一環として、一部の規格を対象に、電子契約「ドキュサイン」の導入を9月にスタートいたしました。

ドキュサインによる電子契約とは、電子契約システム「ドキュサイン」を使って行う電子署名での契約締結になります。具体的な手順としましては、インターテックから契約窓口担当者様宛てに、契約書送付のご案内をメールでお送りし、お客様に契約手続きを画面上（ネット上）で行っていただきます。手続き完了後、PDF形式の契約書が、自動的にお客様とインターテック双方へメール送付される仕組みとなります。

いわゆる従来の「印鑑」は不要となり、契約締結までのスピードや、管理・保管のしやすさ等、作業の効率化を一気に推し進めることが可能となります。今まで電子契約を扱ったことのないお客様もいらっしゃるかと思いますが、電子署名法に準拠したシステムであり、追加費用等は一切かかりませんのでご安心下さい。

現在は一部規格のみでの導入となりますが、今後は順次、対象を拡大して参ります。対象規格のお客様には、開始時に別途ご案内いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【契約書の電子化に関するお問い合わせ先】※弊社ホームページからもお問い合わせいただけます。
東京事務所 営業部　Tel：03-3669-7435　Email：info.ba-japan@intertek.com

Information on training courses

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。（https://ba.intertek-jpn.com/study/）

審査員養成コース

審査員養成コースは、審査員を目指される方だけでなく、最近では企業様から、品質管理体制の改善や、内部監査員のさらなるスキルアップを目指してご参加いただくことが増えております。業務改善や力量向上を目指している皆様のご参加をお待ちしております。

- ISO9001（5日間）/ISO14001（3日間）/ISO45001（3日間）
  ※ISO14001/45001の3日間コースは受講要件がございます。
  詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

開催地　東京（弊社東京事務所）

日　程
- ISO9001・・・2022年3/26（土）～30（水）
- ISO14001・・・12/18（土）～20（月）
- ISO45001・・・12/25（土）～27（月）

ISO/IEC27017:2015 規格概要・導入/オンライン

ISO/IEC27017:2015クラウドサービスのための情報セキュリティ管理策について解説します。

日　程　11/12（金）

SDGsセミナー／オンライン

～お客様から“選ばれる”企業になるために！～

SDGs各目標に起因するリスクと機会、ISO14001を活用した対応について解説します。

日　程　12/22（水）

＊弊社ホームページよりお申込みいただけます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からのお便り

ISO14001:2015 移行型審査員養成コースを受講して

ISO14001:2015 移行型審査員養成コース（2021年6月東京会場）受講

インターテック品質審査員　山田 耕一

この度、ISO14001の移行型審査員研修コースに参加させて頂きました。コースは、講義、個人発表、グループ発表を頻繁に繰り返すことで、効果的に理解が深まっていきました。但し、共通要素の部分では、QMSの知識が役立つものの、EMS特有の部分では逆に理解の阻害となることもありました。

三日目の午前中は脳の疲れがピークに達し、午後からの試験は再試験覚悟で開き直って受験しました。特に環境側面の理解には手こずりましたが、終わってみるとEMSを学んだことで、QMSの審査へのシナジーもあることを認識できました。

今後双方で付加価値の高い審査を行えればと思っています。講師の皆様には大変お世話になり有難うございましたながら頑張っていこうと思います。

インターテック・サーティフィケーション株式会社　https://ba.intertek-jpn.com/
東京事務所　〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋ノーススクエア　TEL：(03)3669-7408 FAX：(03)3669-7410 E-mail：info.ba-japan@intertek.com
大阪事務所　〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F　TEL：(06)6150-0571 FAX：(06)6150-0575 E-mail：info.ba-osaka@intertek.com